

宇宙聖歌

神性と交わるための靈性化された聖歌



パラマハンサ・ヨガナンダ 著



序

瞑想としての 詠唱

神性と交わるための霊性化された聖歌



PARAMAHANSA YOGANANDA

瞑想としての詠唱



音、すなわち振動は、宇宙において最も強力な力である。音楽は神聖な芸術であり、単に快樂のためではなく、神の認識への道として用いられるべきものである。信愛の歌より生じる振動は、宇宙の振動との調和へと導く。誠実、確信、信仰、直観に満ちた言葉は、きわめて爆発的な振動の爆弾にも似て、困難という岩を打ち砕き、望む変化をもたらす力を持つ。これらの霊性化された歌を真の信愛をもって歌う者は、神との交わりと恍惚の歓びを得、それらを通して、体と心と魂の癒しを得るであろう。

歌を学ぶには、一度に一つだけを選びなさい。もちろん、初めは音符と、ハルモニウムでの正しい演奏に心を集中しなければならない。しかし、その歌をよく覚えたなら、あなたの注意は口にする言葉へと向けられるべきである。歌を幾度も幾度も、ますます深い集中をもって繰り返し、あなたの意識が言葉の意味で完全に満たされるまで続けなさい。この実践によって、あなたは歌と一つになる境地に至る。気を散らすいかなる思いも、あなたの意識に入り込むことはできない。あなたが呼び求める神の概念のほかには、何ものもあなたにとって存在しなくなる。

たとえば、神母の名を呼ぶ歌において。これを繰り返し行うことで、われらはその愛に満ちた臨在を呼び求める。秘訣は、その至福の認識を感じるまで歌い続けることにある。そのとき、あなたはその歌の花の甘露を飲んだことを知るであろう。このように行われる歌は、瞑想の一形態となる。

Paramahansa Yogananda



「これらの靈性化された歌、宇宙聖歌を、真の信愛をもって歌う者は、神との交わりと歓喜の歓びを見いだし、それらを通して、体と心と魂の癒しを見いだすであろう。」

Paramahansa Yogananda



宇宙聖歌

聖歌目次

日本語による五十の宇宙聖歌 ・ 非公式訳



聖歌目次



1	御足のもとに	9
2	青き蓮の御足	9
3	雲の色のキリスト	10
4	来たりて、わが魂の歌を聴きたまえ	10
5	暁の歌	11
6	迷妄より我らを救いたまえ	11
7	欲望、わが大いなる敵	12
8	神なるさすらい人	13
9	信者への神母の歌	14
10	わが愛の大海を涸らさないで	15
11	わが心の扉	15
12	常に新たなる喜び	16
13	この眠りより、主よ	16
14	あなたを知る者	17
15	ブラフマーへの讃歌	17
16	我はオーム	18
17	我は泡、我を海となしたまえ	19
18	我は空なり	19
19	魂をこめてあなたを呼ぶ	20
20	永遠にあなたのもの	21
21	御名を歌わん	21
22	三昧にて	22
23	わが夢の彼方の国で	23

24	静寂の神殿にて	24
25	悲しみの谷にて	24
26	自制を学べ	25
27	あなたの愛の灯をともして	26
28	聴け、聴け、聴け	27
29	わがクリシュナは青し	27
30	生もなく、死もなく	28
31	ああ、美しき神よ	29
32	ああ、青き空よ	30
33	ああ、無限の王よ	30
34	オパール of 炎	31
35	わが生命の北極星	32
36	われを御膝に抱きたまえ、母よ	32
37	密かに神を求めよ	33
38	スワミ・ラーム・ティールタの歌	34
39	彼らは御名を聞いた	35
40	あなたはわが命	36
41	幾千の太陽	36
42	今日わが心は潜った	37
43	目覚めよ、目覚めよ、わが聖なる魂よ	37
44	なんという光の閃光	38
45	わが夢の夢が終わるとき	38
46	あなたの歌がわれを流れるとき	39
47	愛はいずこに	40
48	わが神殿に來たりしは誰ぞ	40
49	その日は來るのか、母よ	41
50	わが瞼は閉じることなく	41



日本語

宇宙聖歌

「これらの霊性化された聖歌を真の信愛をもって歌う
者は、神との交わりを得るであろう。」



1

御足のもとに



わが魂の歌を聴きたまえ、わが心の歌を聴きたまえ!
魂の奥深く、密かに、あなたのために花を摘みましょう。
信愛に浸して、その花を御足のもとに捧げましょう。

2

青き蓮の御足



わが心の蜜蜂は、ひたすらに没頭する、
わが神母の青き蓮の御足に。
神母よ、わが神母よ、
神母よ、わが神母よ。

神母の御姿をとった神は、しばしば大きな蓮の上に坐し、あるいは立つ姿で描かれる。蓮は清浄と叡智の象徴であり、それゆえキリスト意識の象徴でもある。キリスト意識とは、創造において父なる神より映し出された「独り子」の叡智である。キリスト意識は、神の創造に顕れる能動的原理——神の振動する力である宇宙自然——のあらゆる働きを始動させ、導く。「青き蓮の御足」は、青色と結びつくキリスト意識にその起源があることを詩的に示している。聖霊、アウム、宇宙自然——これらはみな神母の象徴的な名である。

3

雲の色のキリスト



雲の色のキリストよ、来たりたまえ!
ああ、わが雲の色のキリストよ、来たりたまえ!
ああ、わがキリスト、ああ、わがキリスト、
ああ、わがキリスト、ああ、わがキリスト、
イエス・キリストよ、来たりたまえ!

4

来たりて、わが魂の歌を聴きたまえ



来たりて、わが魂の歌を聴きたまえ、
魂、魂、魂の歌を。
心を破り、青空を破り、魂を破りたまえ!
来たりて、わが魂の歌を聴きたまえ、
魂、魂、魂の歌を。
雲の上を漂い、野辺にたたずみ、
あなたは来て、わが魂の歌を聴いてくださった、
魂、魂、魂の歌を。

5

暁の歌



夜は去り、暁は来たれり。
目覚めよ、わが子らよ、目覚めよ。
瞑想の座法に坐して、
汝の師の蓮の御足を念ぜよ。

6

迷妄より我らを救いたまえ



汝の心に、汝の師の蓮の御足を念ぜよ、
迷妄の大海を渡らんと欲するならば。
清浄において白蓮をも恥じ入らせ、
あらゆる二元を超えて、
ブラフマーの御姿なる師よ、迷妄より我らを救いたまえ。

7

欲望、わが大いなる敵



欲望、わが大いなる敵は、
その兵卒とともにわれを囲んだ。
多くの苦しみをわれに与える、ああ、わが主よ！
その敵をわれは欺こう、
平安の城にとどまりながら、
昼も夜もあなたの歓びのうちに、ああ、わが主よ！
わが運命はいかに？ ああ、主よ、告げたまえ！
プラーナーヤーマを汝の宗教とせよ、
プラーナーヤーマは汝に救いを与えん、
プラーナーヤーマは願いを叶える樹。
プラーナーヤーマは愛する神、
プラーナーヤーマは創造主なる主、
プラーナーヤーマは宇宙そのもの。
小さなプラーナーヤーマを制し、
遍在するプラーナーヤーマとなれ。
さすれば、もはや何ものをも恐れることはない。

スリ・ユクテスワルの庵で、しばしば歌われた。信者が欲望をいかに克服すべきかを神に問い、神はこう答える——プラーナーヤーマ（プラーナ、すなわち生命エネルギーの制御）によって、と。それはクリヤ・ヨーガの聖なる技法であり、最も速やかで最も神聖な道である。

8

神なるさすらい人



われはさすらい人とならん、われはさすらい人とならん、
さすらい、さすらい、さすらわん!
誰も歌わぬ歌をわれは歌わん。
空に歌い、風に歌い、紅き雲に歌わん。
さすらい、さすらい、さすらわん、
オームとともにさすらわん。
わが行く国々の王とならん。
われはさすらいそのものとならん。

9

信者への神母の歌



おお信者よ、われは汝に救いを与えられる、
されどわが愛と信愛は与えられぬ。
それらを与えれば、われはわれ自身を与えることになるゆえ。
われに救いを求めよ、されどわが愛と信愛を求めるな。
まことに、それらを与えれば、
われは貧しくなり、汝の心のうちに囚われるゆえ。

愛を持つ信者はすべてを持つ。ならば、なぜ救いを求めるのか。愛はそれに勝る。「人にわが愛と信愛を与えれば、われは貧しくなる」とは、真に悟りを得た信者が、ほかならぬ主ご自身であることを示す言い方である。人の心は、無限の宝のすべてを得ることができる。

10

わが愛の大海を涸らさないで



わが愛の大海を涸らさないで、
わが欲望の炎で、
わが落ち着きなき心の炎で。
あなたを慕い、あなたゆえに泣く。
もう泣くまい、あなたは永遠にわがもの!
わが心の帳の奥に、あなたを見いだす。
もう隠れないで、主よ、もう隠れないで!
去らないで、主よ、もう去らないで!

11

わが心の扉



わが心の扉を、大きく開いてあなたのために守っている。
来てくださるか、来てくださるか?
ただ一度でも、わがもとに来てくださるか?
あなたを見ぬまま、わが日々は飛び去るのか、わが主よ?
昼も夜も、ああ、昼も夜も、
昼も夜もあなたを探し求める。

12

常に新たなる歓び



歓び、歓び、歓び、歓び、
常に新たなる歓び、歓び。
歓び、歓び、歓び、歓び。

13

この眠りより、主よ



この眠りより、主よ、われを目覚めさせてくださるか？
この夢より、主よ、われを目覚めさせてくださるか？
あなたのうちに潜り、あなたのうちに昇る、あなたの海に、あなたのう
ちに。
この眠りより、主よ、われを目覚めさせてくださるか？
この夢より、主よ、われを目覚めさせてくださるか？
あなたのうちに生まれ、あなたのうちに死に、永遠に生きる、あなたの
うちに。

14

あなたを知る者



知る者は、知る。
ほかの誰も知らぬ!

15

ブラフマーへの讃歌



至福に満ち、超越の歓びを与え、
至高の智の在処。
もはや二元ならず、天のごとく澄みわたり、
すべての者に「汝はそれなり」と知られる。
彼は清浄、常住、不動、
万物の永遠の証人、
性質と思考をはるかに超えて、
師なる主よ、われあなたに額づく。

われは真の師に敬意を捧げる。師はブラフマーの宝玉であり、至高の至福を授ける方。独り、彼は智の化身であり、二元を超える。遍在し、天に似て、ヴェーダの箴言「汝はそれなり」をもって瞑想される。彼は唯一、永遠、無垢、不動であり、あらゆる存在と思考の証人である。彼は存在のさまざまな状態を超え、自然の三重の顕現から自由である。（原典はサンスクリット語。）

我はオーム



我はオーム、我はオーム、オーム、オーム、我はオーム、オーム、
オーム。

わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、わがもとに來たれ!
神母よ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、わがもとに來た
れ!

ああ、わがクリシュナよ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、あ
あ、わがもとに來たれ!

ああ、わがイエスよ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、わ
がもとに來たれ!

ああ、わがババジよ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、わ
がもとに來たれ!

ラヒリ・マハサヤよ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、わ
がもとに來たれ!

スリ・ユクテスワルよ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、
わがもとに來たれ!

ああ、わが師よ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、わがも
とに來たれ!

ヨガナンダよ、わがもとに來たれ、わがもとに來たれ、ああ、わがも
とに來たれ!

遍在なり、我はオーム。遍満なり、我はオーム。

全き祝福、我はオーム。我はオーム、我はオーム、オーム、オーム、
オーム、オーム。

17

我は泡、我を海となしたまえ



さればあなたよ、わが主よ、あなたと我、決して離れず。

海の波よ、海に溶けよ!

我は泡、我を海となしたまえ。

我を海となしたまえ、ああ、我を海となしたまえ!

我は泡、我を海となしたまえ。

ああ、我は泡、我を海となしたまえ。

18

我は空なり



我は空なり、母よ、我は空なり。

我は広大なる青き空の大海。

我は空の小さき一滴、凍れる空。

ヨガナンダはこれを、偉大な弟子ラジャルシに捧げた。エンシニータスにて、二人はしばしば幾時間も三昧のうちに過ごし、大海と空を観想した。

19

魂をこめてあなたを呼ぶ



母よ、魂をこめてあなたを呼ぶ、
あなたはもう隠れていられない。

魂をこめてわが母を呼べ、
彼女はもう隠れていられない。

静寂の空より出でたまえ。

山の谷間より出でたまえ。

わが秘めたる魂より出でたまえ。

わが静寂の洞窟より出でたまえ。

20

永遠にあなたのもの



わが主よ、われは永遠にあなたのもの。
星よりも遠く、はるか遠くへ行こうとも、
われは永遠にあなたのもの。
わが主よ、われは永遠にあなたのもの。
信者は来たり、信者は去りゆくとも、
われは永遠にあなたのもの。
わが主よ、われは永遠にあなたのもの。
われ死するとき、わが目を見たまえ。
目は黙して言うだろう——「われは永遠にあなたのもの、
わが主よ、われは永遠にあなたのもの」と。

21

御名を歌わん



御名を歌わん、御名を飲まん、
そして酔いしれん、ああ、御名に。
オーム、グル・オーム、グル・オーム、グル・オーム、
ああ、わが師よ、わがもとに来たれ、わがもとに来たれ、ああ、わがも
とに来たれ。

22

三昧にて



サビカルパ三昧のヨーガにて、汝はおのれを大我のうちに溺れさせる。
ニルビカルパ三昧のヨーガにて、汝はおのれを大我のうちに見いだす。

23

わが夢の彼方の国で



わが夢の彼方の国で、
雲ひとつ来たらず、黄金の夢が宿るところ、
われは生命の泉のほとりに坐す、わが夢の彼方の国で。
心と心が出会い、霊と魂が挨拶を交わす、
わが夢の彼方の国で。
方舟は待ち、われは夢見る、わが夢の彼方の国を。
静寂の方舟に乗り、静かにわれらは進む、
わが夢の彼方の国へ。
悲しみも来たらず、死も入るを敢えてせぬところ、
わが夢の彼方の国で。
この樂園へと方舟は昇りゆく、
わが夢の彼方の国へ。

「汝の目は麗しき王を見、遥かなる地を望み見ん。」（イザヤ書三十三章十七節）「この地は不完全に満ちているが、美の国に雲はなく、われらは地上の滞在の黄金の夢を実現できる。静寂の方舟のみが、われらをその国へ運びうる。そこではすべての心が叡智のうちに一つとなり、われらの愛は人間的な執着に縛られぬ。われらの魂が互いのうちに霊を迎えるからである。もし静寂の方舟に乗るなら、あなたがた皆が行きたいと願うその国に至るだろう。」——P・ヨガナンダ

24

静寂の神殿にて



静寂の神殿にて、平安の神殿にて、
あなたに出会い、あなたに触れ、あなたを愛さん、
そしてわが平安の祭壇へとあなたを誘わん。
三昧の神殿にて、至福の神殿にて、
あなたに出会い、あなたに触れ、あなたを愛さん、
そしてわが至福の祭壇へとあなたを誘わん。

25

悲しみの谷にて



悲しみの谷にて、千年でも、明日までも、
われは待たん、あなたを見んがために、あなた、あなた、ただあなた
を。
わが主よ、われはただあなたのみを見たい、あなた、あなた、ただあな
たを。
わが心は燃え、わが魂は焦がれる、
ただあなたのために、ただあなたのために。
わが主よ、われはただあなたのみを見たい。

26

自制を学べ



ああ、わが心よ! 自制を学べ。

ああ、わが心よ! 自制を学べ。

感覚の家に入るな、

感覚の家に入るな。

自制を学べ。

27

あなたの愛の灯をともして



わが家にて、あなた御自らの御手で、
あなたの愛の灯をともしたまえ!

すべてを変えるあなたの灯は魅惑に満ち、その光はえも言われぬ。

わが闇をあなたの光に変えたまえ、主よ、

わが闇をあなたの光に変えたまえ、

わが悪しきものを善きものに変えたまえ。

ただ一度われに触れたまえ、さすればわが土はすべてあなたの黄金に変わる。

われがともした感覚の灯はみな、煤けて憂いとなった。

わが魂の扉に坐して、

あなたの甦らせる灯をともしたまえ!

パラマハンサ・ヨガナンダは、一九五二年三月六日、その大三昧の前日に、レイク・シュライン（カリフォルニア州パシフィック・パリセーズ）でこの歌を一時間にわたって歌った。

28

聴け、聴け、聴け



聴け、聴け、聴け、わが心の歌を――

われは決してあなたを忘れぬ、

われは決してあなたを見捨てぬ。

29

わがクリシュナは青し



わがクリシュナは青く、タマールの樹は青し。

ゆえにわれ汝を愛す、タマールの樹よ!

ゆえにわれ汝を愛す、わがタマールの樹よ。

われ死するとき、ああ母よ、高きところにわれを置きたまえ、

タマールの樹の枝の上に。

クリシュナが坐した処、そこでわれは死にたい、

タマールの樹の枝の上で。

30

生もなく、死もなく



生もなく、死もなく、階級もわれにはなし。

父も、母も、われにはなし。

われは彼なり、われは彼なり、祝福された霊、われは彼なり。

心も、知性も、自我も、チッタもなく、

空も、地も、金属もわれはあらず。

われは彼なり、われは彼なり、祝福された霊、われは彼なり。

これはスワミ教団への入門儀式で通常歌われる歌の一つである。まさにこの歌が、パラマハンサ・ヨガナンダの入門儀式の際に歌われた。

31

ああ、美しき神よ



ああ、美しき神よ、ああ、美しき神よ、
あなたの御足のもとに、ああ、われは額づく！
ああ、美しき神よ、ああ、美しき神よ！
森にてあなたは緑、
山にてあなたは高み、
川にてあなたは絶え間なき流れ、
大海にてあなたは厳かさ。
ああ、美しき神よ、ああ、美しき神よ、
あなたの御足のもとに、ああ、われは額づく！
ああ、美しき神よ、ああ、美しき神よ！
仕える者にはあなたは奉仕、
愛する者にはあなたは愛、
悲しむ者にはあなたは慰め、
ヨーギにはあなたは至福。
ああ、美しき神よ、ああ、美しき神よ、
あなたの御足のもとに、ああ、われは額づく！

十五世紀にシク教を創始したグル・ナーナクの讃歌。ヨガナンダがニューヨークのカーネギー・ホールで一時間二十五分にわたって歌った。

32

ああ、青き空よ



ああ、青き空よ、その青き覆いのもとに、
あなたはわが愛する主を隠したのか？
その覆いを開き、われに見いださせたまえ、
わが愛する主を、あなたの心の奥の奥に。

33

ああ、無限の王よ



ああ、無限の王よ！
われは三昧のうちにあなたを仰ぎ見る、
歓びのうちに、さらなる歓びのうちに、
あなたの穏やかなる歓びの光のうちに。

34

オパール炎



オパール炎を見んと欲するなら、闇を永遠に追い払え、
プラーナーヤマの剣で汝の沈黙を焼きながら。
オパール眼の星を通して、あまねくキリストを見よ、
あらゆる原子に、陽子に、電子に眠るキリストを。
黄金の霞める光輪がオパール扉を飾る。
青のうちの星を通して、あまねくキリストに出会え。
光条を翼とする星の鳩が額に舞い降り、
あらゆる心の平安のうちにキリストの御座を示す。
汝の両眼を一つの炎となし、星の門を見よ。
汝の体は光となり、すべての空間を照らすだろう。
賢き靈感によって、星の眼に従え、
汝の魂にキリストが新たに生まれるのを見んがために。
炎を翼とする鳩よ、あなたの光のうちにわれを洗礼したまえ、
あまねく至福のうちにわが魂をキリストで満たしながら。
物質の広間に輝く開口、ああ星よ！
われは汝を通して、星幽の光の国を覗き見る、
すべてのものに生命を灯すその国を。
オパール炎を見んと欲するなら、闇を永遠に追い払え！

この歌は、霊眼の「扉」を通りゆく信者の歩みを描いている。霊眼のオパール色の光は、額の中央に内的に現れる。ヨーギは霊眼の中心に、青き光の輪に囲まれた、輝く白き星を観る。信愛とプラーナーヤマ（生命エネルギーの制御）によって、人は星の門を越える。それは全創造に浸透するキリスト意識と結びついている。

35

わが生命の北極星



われはあなたを、わが生命の北極星となした。
わが海は暗く、わが星々は消え失せようとも、
なおわれは道を見る、あなたの慈悲によって。

36

われを御膝に抱きたまえ、母よ



われを御膝に抱きたまえ、母よ!
われを死の扉に投げ出さないで。
われを御膝に抱きたまえ、母よ!
われを迷妄の扉に投げ出さないで。

37

密かに神を求めよ



瞑想せずして、心よ、汝はあちらこちらとさまよう。

瞑想せずして、心よ、汝はあちらこちらとさまよう。

崇むべき御方を!いま密かに神を求めよ。

至福のそよ風に乗り、天の車に乗りて、

汝の神なる眼で、神の御目を覗き込め。

千の花卉の甘露を飲め!飲みて、飲みて、飲め!

宇宙の偉大なるオームとともに、さらに深く沈め。

宇宙の偉大なるオームとともに、さらに深く沈め。

38

スワミ・ラーム・ティールタの歌



誰もわれに償わせえぬ、言え、誰がわれを害しうるか?
世はわれに道を譲りて脇に退く、
われは来たる、ああ、燃えさかる光よ! 影は逃げ去らねばならぬ。
いざ、ああ大海よ、分かれ、裂けよ!
さもなくば、干上がり、焼け焦げ、涸れて、去れ!
誰もわれに償わせえぬ、言え、誰がわれを害しうるか?
心せよ、ああ山々よ! わが道を遮るな。
汝らの脇腹は、今日、碎かれ、引き裂かれん!
友よ、助言者よ、息を無駄にするな、
わが命を受け、死を貪り食らえ!
誰もわれに償わせえぬ、言え、誰がわれを害しうるか?
われは嵐に乗り、疾風にまたがる、
わが銃は稲妻、わが弾は決して外れぬ。
狩人のごとく狩り、掴むものを貪り食らう、
木々と山々、大地と海原を。
誰もわれに償わせえぬ、言え、誰がわれを害しうるか?
わが車に運命と神々をつなぐ、
雷鳴の声で、あまねく告げ知らせよ!
吼えよ、ああ風よ! 鳴れ、喇叭よ、自由に鳴れ!
自由! 自由! 自由! オーム!

39

彼らは御名を聞いた



彼らは御名を聞いた、盲人も、足萎えも、病める者も。
彼らはあなたの扉に来た、主よ、彼らはあなたの扉に来た、
彼らに謁見を賜え、主よ!

彼らは御名を聞いた、盲人も、足萎えも、病める者も。
絶望のうちにある者の、その涙を拭いたまえ!

彼らはあなたの扉に来た、主よ、彼らはあなたの扉に来た、
彼らに謁見を賜え、主よ!

彼らは御名を聞いた、盲人も、足萎えも、病める者も。
罪に溺れた者は、誰のもとへ行けばよいのか?
彼らには誰もいない、主よ、彼らには誰もいない。
彼らを退けないで。

彼らは御名を聞いた、盲人も、足萎えも、病める者も。

40

あなたはわが命



あなたはわが命、あなたはわが愛、
あなたはわが求める甘美さ。
わが愛のもたらす想いのうちに、
われは御名を味わう、かくも甘く、かくも甘く。
信者はあなたがいかに甘美かを知る。
あなたが知らせる者のみが、それを知る。

41

幾千の太陽



誰がわれに、あなたが暗いと言うのか、ああ、わが神母よ？
幾千の太陽と月が、あなたの御身より輝き出でる！

42

今日わが心は潜った



今日わが心は、あなたのうちに深く潜った、あなたへと、
あなたの愛の真珠を求めて、あなたの底なき海より。

今日わが心は、あなたのうちに深く潜った。
もし見いだせずとも、われはあなたの海を責めぬ。
われは自らの潜り方を責めよう。

43

目覚めよ、目覚めよ、わが聖なる魂よ



ああ、わが聖なる魂よ、目覚めよ、目覚めよ!
ああ、わが聖なる魂よ、目覚めよ、目覚めよ! ああ、わが聖なる魂よ!
汝は瞑想せず、汝は精神を集中せず、
空しき言葉のうちに時を過ごした。
ああ、わが聖なる魂よ、目覚めよ、目覚めよ!
ああ、わが聖なる魂よ、目覚めよ、目覚めよ! ああ、わが聖なる魂よ!
死は汝の扉に来たり、もはや時はないかもしれぬ、
汝の魂を贖うための時は。
ああ、わが聖なる魂よ! 目覚めよ、目覚めよ!
ああ、わが聖なる魂よ! 目覚めよ、目覚めよ!

44

なんという光の閃光



わが命は主のため、主のため、
その御世界の欲望に触れられぬ御方のため。

その魅惑の御姿は比類なく、
歓びそのものなる御方、歓びそのものなる御方、
われらの宇宙の、驚くべき光、
そして現象を超えた宇宙の、現象を超えた。

わが命の命は、あなた。
宇宙と、その彼方の、驚くべき光、
わが命の命は、あなた。

なんという光の閃光が、あなたの御顔に煌めくことか、母よ!
なんという光の閃光が、あなたの御顔に煌めくことか!
あなたを見て、われは全身を貫かれて震える。

45

わが夢の夢が終わるとき



彼らはいずこより来たるのか? いずこへ飛び去るのか?
わが夢の夢が終わるとき、母はわれをその御膝に抱き上げたまう。

46

あなたの歌がわれを流れるとき



ああ、生は甘く、死は夢、
あなたの歌がわれを流れるとき、わが主よ、
あなたの歌がわれを流れるとき。
歡びは甘く、悲しみは夢、
あなたの歌がわれを流れるとき、わが主よ、
あなたの歌がわれを流れるとき。
健やかさは甘く、病は夢、
あなたの歌がわれを流れるとき、わが主よ、
あなたの歌がわれを流れるとき。
称賛は甘く、非難は夢、
あなたの歌がわれを流れるとき、わが主よ、
あなたの歌がわれを流れるとき。

パラマハンサ・ヨガナンダは記した——「われは靈において目覚めている。しかし神が、その創造の夢の国で働くよう命じるとき、われは喜んで、喜劇であれ悲劇であれ、あるいは神が定めた美しい役であれ、いかなる役をも引き受ける.....どれも心地よい。この壮大な夢の国の舞台上、わが役を通して働いておられるのは神御自身だと感じるからである。」

47

愛はいずこに



この世にて、母よ、誰もわれを愛しえぬ。
この世にて、彼らはわれの愛し方を知らぬ。

清き愛する愛は、いずこに？

まことにわれを愛する者は、いずこに？
そこにこそ、わが魂は在らんことを願う。

48

わが神殿に來たりしは誰ぞ



わが神殿に來たりしは誰ぞ？
すべての扉はおのずから開き、
すべての灯はおのずから点る。

闇は、暗き鳥のごとく、
飛び去りゆく、ああ、飛び去りゆく。

49

その日は来るのか、母よ



その日は（ああ!）われに来るのか、母よ?
「愛しき母よ!」と言って、わが目より涙が流れる日は?
叡智の蓮は花開き、闇は忍び去りゆくだろう、
忍び去り、忍び去り、忍び去りゆく、母よ、忍び去りゆく!
幾千のヴェーダは告げる——「神母はあまねく在す!」と。
スリ・ラーム・プラサードは言う——「神母はあまねく留まる」と。
盲いた目よ、母を見よ、あまねく隠れたもう母を!

50

わが瞼は閉じることなく



あなたを見てより、わが瞼は閉じることなく。
あなたなくしては、わが息も流れんとはせぬ。
あなたを見てより、わが瞼は閉じることなく。
あなたは来ると言われたが、来てはくださらぬ。
わが魂は落ち着かず、昼も夜も。
あなたを見てより、わが瞼は閉じることなく。



付録

用語集

サンスクリット語および信仰用語



用語集



Avatar

神性が肉体へと降下すること。

Babaji

崇敬すべき父。

Bhajans

ヒンドゥーの歌。一つまたは複数の神の名を集中して繰り返すこと。意識を神の臨在へと導く。

Gyanavatar

叡智の化身。

Govinda

「牛飼いの長」としてのクリシュナの名。

Gopala

「牛飼い」としてのクリシュナの名。

Hari Bol

心を盗む者として神を歌うこと。

Jai

万歳。歓喜と讃嘆の表現。

Kali

神母の相における神の名。バヴァタリニ・カーリーは、宇宙の救済者としての神母。

Mahavatar

偉大なるアヴァターラ、神の化身。

Namo

敬礼。

Premavatar

神の愛の化身。

Radha

クリシュナの最も偉大な信者。

Sangamata

教団の母。

Sri

主。

Yogavatar

ヨーガの化身。

